京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 NO.106



２０１４年　１０月発行

事務局：医療法人　つばき医院内
〒602-0895　京都市上京区上御霊前町 410
TEL　075-411-1011
FAX　075-411-1020
e-mail　office@kyo-psw.org
HP　http://www.kyo-psw.org/

【10 月例会のご案内】

テーマ：

認知症の基礎を学ぶ
～PSWとして知っておきたい、関わりとサービスのしくみ～

日　時：2014 年 10 月 24 日（金）19:00～21:00
場　所：キャンパスプラザ京都　第一会議室

～プログラム～
「認知症の理解と接し方について」
　いわくら病院　　川上　尚子さん（認知症治療病棟担当･認知症ケア専門士）
「認知症の方への精神科医療について」
　　宇治おうばく病院　福徳　理恵さん（認知症疾患医療センター担当）
「介護保険制度について」
　成逸地域包括支援センター　上林　里佳さん（社会福祉士･精神保健福祉士）
「新しい取り組み～認知症初期集中支援チームと認知症カフェについて～」
　　京都府立洛南病院　山内　陽子さん（認知症疾患医療センター担当）

高齢化が進み、認知症およびその予備軍と考えられる方は 65 歳以上の方のおよそ 4 人に 1 人、全国で 400 万人を既に超えていると言われています。みなさんの普段の関わりでも、認知症により精神科医療が必要となった方や、もともと精神障害を抱えていて認知症を発症された方、そして仕事以外でも家族や近所の方など、どんどん身近な存在になって

きているのではないかと思います。また、これまで障害福祉制度を利用していた方が 65 歳になって突然介護保険制度に切り替わって戸惑っている、という例も多いかと思います。

認知症についての研修や講義はいまやあちこちで行われておりますが、今回の例会は、「認知症に関わる精神保健福祉士が、その立場で学んだことや関わっている実践について伝える場」というコンセプトで行います。一人でも多くの方に認知症の方について知っていただき、よりよいケアができる社会になってほしいとの想いをこめて企画いたしました。みなさまのご参加をお待ちしております。

（研修部）

【2014 年度京都精神保健福祉士協会初任者研修のご案内】
（公益社団法人日本精神保健福祉士協会 生涯研修制度 基幹研修Ⅰ）

皆さまお待たせいたしました。2014 年度初任者研修の詳細が決定いたしました。二日間の研修内容は下記のとおり充実したものとなっております。

現在、研修部委員会では詳しいご案内と申込書のお届け準備をすすめているところです。

○ 受講対象の 2011 年度･2012 年度・2013 年度・2014 年度入会の皆さま、郵送でお送り致します。
11 月 1 日に、ピンクの協会用封筒でお手元に届く予定です。即開封･お申込ください。

○ 受講対象でない会員のみなさま、メールにてご案内をさせていただきます。
対象年度に受講の機会を逃された方、入会後何年も経っているけれど受講してみようかなと思われる方、日本協会への入会をお考えの方、どうぞこの機会に受講ください。
メールのチェックをお願いします。

2014年度初任者研修

開催日：2015 年 1 月 31 日（土）～2 月 1 日（日）

会　場：京都市国際交流会館　特別会議室および研修室

プログラム

第一日目（基幹研修Ⅰ）　2015 年 1 月 31 日（土）10:00～17:50

「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」
講師：荒田　寛氏（日本精神保健福祉士協会相談役・滋賀県支部・龍谷大学）

「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」～価値と視点～
講師：知名　純子さん（日本精神保健福祉士協会理事・まるいクリニック）

「精神保健福祉士の実践論Ⅰ」～大切にしていること～
シンポジスト：巌 弥生子さん（瀬尾クリニック）
山本 幸博さん（就労継続支援 B 型事業所 ジョイント･ほっと）
中野 友香さん（京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう）
コーディネーター：上村 啓子さん（京都市朱雀工房）

「グループワーク」

第二日目（京都協会オリジナル）　2015 年 2 月 1 日（日）9:30～18:00
「記録の書き方」講師：西邑　章さん（京都市丹後保健所）
「面接技術」　講師：佐藤　純さん（京都ノートルダム女子大学）
「京都精神保健福祉士協会の成り立ちと活動について」
担当：西村 睦美（京都精神保健福祉士協会会長・川越病院）
「精神保健福祉士の倫理」
担当：倫理について考える委員会（京都精神保健福祉士協会）

＊　基幹研修 I の受講については、8 月にメール配信にてお送りした案内第一弾をご覧ください。

＊　受講された皆さまには、修了証書をお渡しいたします。

■　基幹研修 I の受講について

○ すでに初任者研修を受講された会員の方々も受講いただくことができます。
・導入されていない 2007 年度･2008 年度に受講された方
・オリジナルバージョンのみの開催であった 2010 年度に受講された方

○ 日本協会への入会を翌年度に予定されている方（初任者研修の対象でない会員）

＊ 日本協会への入会を希望される方は、受講後 2015 年 12 月末までにご入会いただくことで、基幹研修 I 修了とみなされます。さらに 7 月末までに入会いただきますと、京都協会に支給されます入会奨励金が倍額になります。

公益社団法人日本精神保健福祉士協会の生涯研修制度は、基幹研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修了することによって研修認定精神保健福祉士となり、その後 5 年毎に更新研修を受けることによって専門職としての質を担保しようとするシステムです。
京都精神保健福祉士協会では、初任者研修の内容の充実をはかるため 2009 年度より日本協会の基幹研修 I を初任者研修のプログラムに盛り込んで開催しています。

（研修部）

【12 月例会（日本精神保健福祉士協会京都府支部協力研修）】

精神科病院からの退院支援･地域定着支援 ～「あたりまえに暮らしたい」を支える～

日　時：2014 年 12 月 6 日（土）14:00～17:00

会　場：京都市職員厚生会職員会館「かもがわ」大多目的室
京都市中京区土手町通夷川上る末丸町 284
（河原町通竹屋町東入る）
http://www.kyotocity-kouseikai.jp/kamogawa/
TEL　075-256-1307

内　容：「事例 A さん」：長い入院から自由になって
京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」＋川越病院
ピアサポーターA さんから
「事例 B さん」：地域で自分らしく暮らしたい！を支える連携
ACT-K + いわくら病院
「事例 C さん」：頻回入院を繰り返す方への地域移行・地域定着支援
京都市中部障害者地域生活支援センター「にしじん」＋いわくら病院

対　象：当例会は、会員限定とさせていただきます。

12 月例会は当協会と京都府支部の協力研修として開催され、退院支援・地域定着支援がテーマです。

「退院支援」は PSW の中核業務として営まれ、特に病院 PSW は、入院されている方に寄り添い、困難をともに乗り越えて地域での生活を再構築する支援を行おうとしてきました。2000 年代に入って大阪府での退院促進事業を契機に、2008 年以降地域に拠点をもつ PSW による退院支援が制度化されました。他方、短期間で入退院を繰り返す事例や、いくつもの生活支援に奔走することが退院支援そのものとなるような事例なども、PSW の退院支援の見落とせない部分として存在します。こうした中で病院での支援とそれに連続した地域の暮らしでの支援が PSW の連携によって行われ、あり方や展開の模索が続いています。

この研修会では、病院と連携したチームを作り、退院支援から地域での生活支援を続けている PSW の関わり 3 事例の報告をうかがいます。退院支援・地域生活の定着支援の実践内容や課題、葛藤などを学び、参加者の考えや経験を交換する中で、PSW としての力を高めたいと願っています。またピアサポーターとしての支援についても実際にピアサポーターの方からお話もお聞きして理解を深めたいと考えています。

今年 4 月から精神保健福祉法改定によって医療保護入院者への退院後生活環境相談員が設置されました。また退院支援の困難を背景にした「病床転換型居住系施設」をめぐる緊迫した情勢は、「退院」とは何かを我々に問い返しました。これらは退院支援とそれによって得られる「あたりまえの暮らし」を支えることが、また入院が決して地域からの排除ではなく「あたりまえの暮らし」を支えるすべとすべきことが、重要な課題であることを私たちに改めて思い起こさせたように思います。今だからこそ、地域で「あたりまえの暮らし」をする上での支援について一緒に考えましょう。

（協力研修実行委員会）

【8月例会報告】

テ ー マ：『精神科入院治療の現場を知る～入院治療と地域支援～』
日　　時：　2014年8月23日（土）13:15～16:30
会　　場：　医療法人栄仁会　宇治おうばく病院
　　就労移行支援事業所　ワークネットきょうと
参加者数：　27名　　※今回は、会員限定での開催とさせていただきました。



8 月例会は、病院にあまり関わったことのない PSW の方には入院治療の場を知ってもらい、病院勤務されている PSW の方にも同じ治療の場であるも別の現場での取り組みについて知ってもらい、日常業務に活かしてもらいたい、という思いをこめて企画いたしました。また、過去のみなさまのアンケートの中でも多くいただいておりました「就労支援の現場について学びたい！」の声にお応えしまして、就労移行支援事業所での見学も実施いたしました。

まず、ワークネットきょうととその中に併設されている訪問型生活訓練いろはの説明・見学を金森さんにしていただきました。その後、宇治おうばく病院まで移動し、病棟（救急急性期病棟・認知症治療病棟・うつストレスケア病棟・療養病棟）・デイケアの見学をさせていただきました。

見学後、大塚さんから医療法人栄仁会での取り組みやその中での PSW の担う役割について説明いただき、それをふまえた上で事業所・院内見学についての感想や意見交換を 5～6 人のグループに分かれておこないました。「病院が本当にきれいで、精神科・閉鎖といったことへのイメージもすこしかわって見えた」「それぞれの事業所・病棟での機能分化がしっかりとなされているなあと思った」などのご感想をいただきました。また、医療機関勤務の方・支援センターなどの事業所勤務の方・行政勤務の方などいろいろな方にご参加いただいて活発な意見交換ができ、良い雰囲気の中で無事に例会を終えることができました。アンケートからは、「いろいろな支援のかたちがあることを学べました」「いろいろな職場の方と話し合うことで、多面的・立体的に共有できたのでよかったです」「就労移行への興味がもてた」とのご感想をいただきました。また、「精神科の療養型病院の役割、今後の方向性など考える機会があればいいなと思いました」と今後の例会企画の参考になるようなご意見もいただきました。



2014 年度のテーマは『もっとつながる』ですが、やはり同じ PSW でもそれぞれ違う所属の方との意見交換は得られるものが大きいなと実感いたしました。

最後になりましたが、ご協力いただきました宇治おうばく病院の皆様ありがとうございました！そして、会員のみなさま、たくさんのご参加ありがとうございました。（研修部）

【リレー職場紹介】



京Ｐ子ちゃん

今号は…
地方独立行政法人　京都市立病院
精神保健福祉士 東森　華子さんです

Q1.入職したきっかけと職場のことを教えてください！

京都市中京区（西大路五条）にある、584 床 36 科からなる一般病院です。所属するのは診療部精神神経科で、外来のみで精神科病床はありません。院内で PSW は一人ですが、精神科医 2 名、心理士 1 名で精神科外来には看護・医事スタッフいないため 4 名が協力しながら日々の業務を行っています。

前職は、奈良市内のアルコール専門クリニックで PSW として勤務していました。身体合併が多いアルコール依存症の方に関わる中で「どんな障害や疾患があっても身体的治療も平等に安心して受けられるようになって欲しい」と感じていました。そんなことを感じながら「自分が一般病院に勤めて、これまで患者さんから教わった『回復』を身体科 Dr や看護師さんに、直に伝え、感じてもうしかないのでは？！」と大胆にも思い至りました。

そんな想いとご縁が重なり合って、現職に勤め 3 年が経過しようとしています。PSW 業務は、前任者までは京都市の保健師さんが派遣され連携室業務と兼務で PSW 業務行っていましたが、独立行政法人化したことをきっかけに病院職員として精神科専属の PSW として業務にあたることになりました。業務内容としては、外来受付から面接、入院調整、関係機関とのやり取り、患者会、病棟患者さんへの援助など多岐にわたります。PSW だからといって逃れられる環境ではないので、医療行為と会計以外が業務とお伝えした方が分かりやすいかもしれません。

Q2. 仕事をする中でのやりがい、悩み、嬉しいことなどを教えてください！

一人職場になってからは即時判断を迫られる救急科対応などでは未だ緊張しますし、その晩は「もっと工夫できたのでは？あれでよかったのか？」などを考え込んでしまう事もあります。悩みやすい方だなと自己を振り返ることもありますが、決して否定的に捉えておらず、最終的には悩むことから始まる！という気持ちでおります。また、幸いにも当科はスタッフが少ないことが功を奏して、Dr も気兼ねなく PSW としての意見を伝えられる環境にあり、それぞれの専門性を尊重して連携できていることが救いですし、科としての強みであると思っています。

やりがいを感じるのは、患者さんが「焦らずに付き合っていきます」「話を聴いてもらえてスッキリしました」など、生活や治療を前向きに捉えられるようになった気持ちを聴かせて頂ける時、笑顔を取り戻して下さったと実感する時です。また、身体科入院をされている患者さんへ関わるスタッフと共に、患者さんの回復を実感できた時などは、一人で感じる喜びを上回るものがあります。

Q3.最後に…仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

PSW として関わるのは、患者さんの人生の一場面に過ぎないということを意識して関わっています。医療現場は、特殊な環境であり地域生活を支えるための治療の場であると認識しています。回復を目指すのは医療者でも家族でもない、患者さん自身であり、その意見や想いが尊重されるよう PSW として援助を続けていきたいと考えています。そのためにも他機関連携を今後も充実していきたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

【2014 年度第 3 回役員会議事概要報告】

日時　2014 年 8 月 26 日（火）　19:00～22:50　場所　まるいクリニック
出席）石崎･大石･大塚･川上（遅刻）･斉藤･知名･西村･藤井･松本･宮崎
欠席）下村･橋本
司会）松本　　書記）斉藤

詳細は下記 URL にてご確認ください。
http://www.kyo-psw.org/member/kapsw/media/1/20143thyakuinkaigijigaiyo.pdf

【事務局からお知らせ】

入会
1）戸田　則子さん　　所属）社会福祉法人京都総合福祉会　京都障害者就業・生活支援センター／京都市障害者職場定着支援等推進センター
2）日笠　哲二さん　　所属）NPO 法人　なんてん　友輪館
3）瀬川　桂子さん　　所属）なし

退会
1）柏木　陽子さん　　所属）嵯峨嵐山・田中クリニック

8 月 26 日現在会員数　353 名

2014 年度会員名簿の記載変更及び訂正をお願いいたします。
（ご迷惑をおかけし申し訳ありません。）

1）福井　千賀子さん　所属）（誤）公益社団法人京都保健会　京都民医連太子道診療所
（正）すでに退職されていると上記機関よりご連絡いただきました。

2）廣部　出さん　　所属）（誤）株式会社　地域計画建築研究所　第２計画部
（正）株式会社　地域計画建築研究所
3）坂岡　隆司さん　　所属）（誤）京都市東部精神障害者地域生活支援センター
からしだねセンター
（正）京都市東部障害者地域生活支援センター
からしだねセンター
4）岩井　授身さん　　所属）（誤）京都市北区障害者地域生活支援センター ほくほく
（正）京都市北部障害者地域生活支援センター ほくほく

※名簿を９月初めに送付しております。発行前に事務局に届いている情報をもとにしておりますので、現在の所属等と異なる場合がございます。その際には事務局まで変更（メール･ファックス･ホームページ）のご連絡をお願いいたします。
また、送付は主にメール便を活用しております。転居などで送付先が変更となった場合、郵便の場合は転居届をなされていれば転送されますが、メール便は基本的に事務局に戻ってきます。なるべくきちんとお手元に届けたいと思いますので、郵送物の送付先の変更も速やかに事務局までご連絡をお願いします。

※会費納付のお願い

今年度も半分を過ぎようとしています。先日名簿送付の際に、その時点で未納の方には振込用紙を同封しております。なるべくお早目に会費の納付をお願いいたします。
ご不明な点は事務局にお問い合わせください。

振込先：郵便振替
加入者名：京都精神保健福祉士協会
口座番号：00960-7-120392
（青枠の振込用紙をご使用ください。振込手数料はご負担お願いします）

ほっとひと息コーナー



夏の初めに購入したアップルミントの苗。元気に育つ姿に癒されることはもちろん、飲み水に入れてミントの香りを楽しむなど、日常にちょっとゆとりを加えてくれる存在でした。そんなミント…私の不注意で2､3日水やりを忘れ、気づいた時には猛暑によりカラカラの枯れ木になってしまっていました（涙）お店の人には“強い品種なので暑くても大丈夫”と言われた苗だったのですが、京都の夏と水分不足には打ち勝てなかったようです。

しかし諦めの悪い私は枯れ木に毎日水をやり続け､1～2週間経った頃でしょうか…なんと枯れ木からミントの小さな葉っぱが生えてきたのです。信じて水をやって良かった！見える部分は枯れていても、土の中の根っこは生きていたのですね。日常の中で小さな生命の奇跡に感動してしまいました。

少し涼しくなり、ミントにも人にも優しい気候になってきましたね。復活したアップルミントで疲れた胃袋を労って、より美味しい秋を楽しみたいと思います。（平野美菜）

【編集後記】

もう10月も半ば、今年ももうすぐ終わる…！と焦ってしまうのは、やり残していることがあるからなのか、やりたいことがあるからなのか。自分を見つめつつ、一日一日を大切にしていきたいと思っています。（北山紗恵子）

引っ越しと初編集がかぶるというトラブル（私の管理ミス）に見舞われましたが、なんとか両方を無事に終えることができそうです。これから宜しくお願いいたします。（平野美菜）